

学校だより

白山市立鳥越中学校

特 別 号

令和7年9月16日(火)

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果・分析

4月15日(火)、17日(木)に実施しました3年生対象の全国学力調査の分析・考察についてお伝えします。国は変化の激しい社会の中でより良く生きるためには、子どもたち一人一人が自ら個性を発揮し、困難な場面に立ち向かい、未来を切り拓いていく力を求めています。このために必要となるのは、自ら学び自ら考える力などの「確かな学力」、他人を思いやる心や感動する心などの「豊かな人間性」、たくましく生きるための「健康や体力」などの「生きる力」です。子どもたちの「生きる力」は、学校だけでなく、家庭や地域と一緒に育むものですが、学校では、これからの生涯学習社会の中で、社会に出た後も生涯学び続けることができる基礎的な資質や能力を育むことを重視しています。

つきましては、本校でも調査結果を授業改善及び学習指導や生徒指導の改善・充実のために反映させ、子どもたち一人一人に応じて指導するなど「わかる授業」を行い、「確かな学力」を育むことができるように努めてまいります。

1 分析・考察・改善策

【国語】

分 析・考 察

知識や技能に関する問題は全般的に正答率が高く、特に言葉の特徴や使い方に関する事項に関する設問において、その傾向が顕著であった。一方、文脈を踏まえて自分の考えを書く問題や、手紙の下書きを修正し、その部分を修正した方がよいと考えた理由を説明する問題、読み手の立場に立って、文章を整える問題において正答率がやや低く、無回答も見られた。

改善策等

- ◆複数の条件を満たして文章を書くことができるように、授業のまとめや単元の終わりに書く課題を与える際、教師が複数の条件を提示してから、書くように指導する。
- ◆文章の推敲に関して、「表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えること」に課題が見られたので、作文課題を与える際は、書いた文章を読み返す視点を明確にして、身に付けている知識や技能を生かしながら、よりよい文章に整えることができるように指導していく。

【数学】

分 析・考 察

データの活用に関する設問の正答率が高かった。記述式の問題において、自分の考えを書くことができている。しかし、式の意味を読み取り、適切に説明することに課題がある。また、知識・技能を問う設問の正答率がやや低く、基本的な学習内容の定着が不十分であった。

改善策等

- ◆各単元で既習を確認し、用語の理解を図る。また、基礎的な知識・技能を定着させるため、プリント演習や小テストを行う。
- ◆数学用語を用いて表現したり、問題解決の方法を説明したりする場面を設定する。表現した内容を振り返る活動を設定し、考えの根拠や事柄が成り立つ理由を吟味させることで、式や図、表、グラフなどを用いて書いたり説明したりする力を養っていく。

【理科】

分 析・考 察

基本的な実験・観察の技能に関する設問の正答率が高かった。科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できていた。しかし、細かな言葉の意味をしっかりと理解できていない部分がある。また大地の変化について、時間的・空間的な見方を働かせ、調査の結果を関連付けながら、地層の広がりを考えることができなかった。

改善策等

- ◆授業ワークや小テストを活用して授業での復習を習慣化させる。
- ◆授業では、一人ひとりが経験や既習をもとに予想し、実験し考えを交流する、再思考する、まとめることを意識した指導を行っていく。

2 学習・生活の状況（質問紙調査より）

（1）主な質問事項についての結果と分析・考察

- ①「自分には、よいところがあると思いますか」の設問での肯定的な回答の割合が8割近くあり、高かった。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の設問でも肯定的な回答の割合が大半を占めた。日々の授業や活動から、生徒一人一人の良さを伝えており、自己有用感が高まりつつあることがわかった。
- ②多くの生徒は規則正しい生活が送れているようである。また、平日1時間以上の家庭学習をしている生徒は約6割という結果で、家庭学習の習慣が身についている生徒もいるが、学習に対する関心が低い生徒が多かった。

（2）改善策等

- ①生徒同士で良いところを見つける生徒会の取り組みを継続する。授業や行事等各活動において、生徒が互いの考えを交流し、互いのよさを学び合う場や、一人一人の生徒が主体的に学ぶことができるような課題を設定するなどしながら、生徒が互いのよさを認め合い、自己有用感を高められるようにしていく。
- ②今後も規則正しい生活が送れるように生徒たちの様子を把握していく。家庭学習の充実を目指し、ガリガリノートの表彰や取り組み内容の紹介などを継続していく。また、小学校と連携し、家庭学習の時間を増やすための共通の取り組みを行っていく。各教科で効果的な学習内容を提示したり、個々の生徒に応じて学習方法を助言したりしながら、粘り強く課題に取り組む態度を育てていく。

本校ではこのような機会を通して、生徒の学びが一層充実するよう改善活動に取り組んで参ります。